

令和3年度尾張旭市一般会計歳入歳出決算認定について

討論要旨 川村つよし議員

2021年3月9日、この年の3月議会が始まって1週間後のことでしたが、夕方6時頃、名鉄瀬戸線尾張旭駅西側の踏切近くで市内在住の22歳女性が自殺しました。

自殺した女性の背景を承知していませんので、関連づけて語ってよいものか分かりませんが、コロナ禍で、特に社会的に弱い立場の人たちの暮らしを支える仕組みが脆弱であるという日本の課題が顕在化しました。

具体的には、炊き出しの現場にリーマンショックのときには見られなかった女性の姿が見られるようになった、あるいはアルバイトができずに困窮する学生の姿などとして表れました。

個人市民税の状況から、コロナの影響が見ることができないか検討してみましたが、目立った変化を見いだせません。支援を必要とする市民がどこかにいるのではないかと、見つける方法はないかと支援に結びつけるよい手段はないかと悩ましく思っております。

決算審査に当たり、改めて当初予算の説明資料、重点事業の概要を確認しました。

市長の言う「こどもは宝」の政策を感じられるものだと思います。

来年は、1月に市長選挙があります。私は野党の立場ですが、尾張旭市の今後の方向性として、森市政で「こどもは宝」の政策を強く打ち出していけば、健康づくりに続き、子育て支援策を尾張旭市の看板政策に、ブランドにできないだろうかと考えておりました。

令和3年度は、子供の医療費助成制度について、18歳到達の年度末まで入院時の医療費助成を開始し、今年来月からは通院時も対象年齢を拡大するところまで来ました。討論の対象となっている令和3年度の話ではありませんが、これまでは医師会が同じ瀬戸市と足並みをそろえるのが通例だったものを、それに先行して実施に踏み切っていただいたこと、その決断に深く感謝と敬意を申し上げます。ありがとうございます。

次の子育て支援策として何を取り組んでいくのか、今回、個人質問で取り上げましたが、学校給食の無料化がよいと思います。問題は、財源をどうするかという話になるのですが、令和3年度決算では、財政調整基金の決算年度末残高が25億1,300万円になりました。仮にこれを崩しながら中学校生徒の給食費無料化に充てても10年以上の費用は既にあり、10年後でも10億円の基金が残る皮算用になります。

予算決算特別委員会の全体会において、今年3月に改訂した財政運営基本方針について意見を言いました。財政調整基金を幾ら確保するのか、これは難しい議論だとは思いますが。

基金残高が多ければ財政運営は安心だとも思うのですが、むしろ貯金が少ないほうが支出に慎重になり、よくよく検討した施策を進めていく堅実な市政運営になるのではないのでしょうか。また、経済波及効果を思うと、自治体の貯金は何も生み出しません。得られた税収はなる早で支出をし、経済を回していったほうがよいという考え方もあるのではないのでしょうか。

最後にもう一つ、批判点として、三郷駅周辺まちづくり事業についてです。

これまでも批判を続けておりますが、現在の経済状況で物価高騰の問題が懸念材料として加わりました。財政的な不安材料が増えた中で、このまま進めてよいのか、中止をするべきではないかと疑問を投げかけ、反対討論いたします。